

## 先進的な取組みが注目される多摩市議会にヒアリング 議会費のあり方に注目

伊藤久雄（認定NPOまちぼっと理事）

7月20日、市民政策研究会（主宰：坪郷實早稲田大学名誉教授）として、多摩市議会のヒアリングを実施した。対応して頂いたのは、岩永議長と大野まさき市議のお二人。ヒアリングのテーマは以下のとおり。

- ・ 議会改革の取組み
  - ・ 議会基本条例の特徴
  - ・ 議会報告会、議会意見交換会など、市民参加の場づくりの工夫
  - ・ 議会における諮問機関について（多摩市議会は設置していない）
  - ・ 議会における予算、決算審査の取組みなど
  - ・ その他、議会だより改革、市民意見の政策化、条例提案に向けた体制など
- すべてを報告するのは割愛し、ここでは次の2点を取り上げたい。

- ① 多摩市議会における予算、決算審査の取組み
- ② 議会活動の特性を考慮した議会費のあり方

### 1. 多摩市議会における予算、決算審査の取組み

多摩市議会において特徴的なのは、議会における評価システムが確立していることと、決算から予算へのアプローチが機能していることである。

- 議会における評価システムの確立
  - 多摩市議会では個別の事業評価から施策評価へと進化（深化）し、議会独自のテーマ設定を行っている。その特徴は、施策評価シート（施策評価選定シート、施策評価準備のための事業評価シート、施策評価シートー選定テーマに基づく施策医評価ー）に基づいて行われていることで、分科会（常任委員会が対応）ごとに評価対象の施策テーマと選定テーマに関する事業を選定し、次に会派ごとに事業評価と施策評価を行った上で、分科会として事業と施策をそれぞれ評価するシステムをとっている。
  - 施策評価選定シート、施策評価準備のための事業評価シート、施策評価シートー選定テーマに基づく施策評価ーの例として、28年度に行われた総務分科会（選定テーマは「都市農業振興を通して、活気と魅力を感じるまちづくり」）の各シートを添付する（別紙）。
  - 決算議会（9月議会）においては、議会評価（例：平成28年度決算審査 施策評価）を市長あて提出し、予算編成に十分反映するよう申し入れ、その対応について議会に報告するよう要望している。
- 決算審査から予算へのアプローチ

- 議会の評価については、予算案等においてどのように対応したかについて、市長から議会に報告される。市長からの報告は、別紙のように議会からの提案に対して考え方と新年度予算対応に分けて示されている。
- 市長からの報告を受けて、議会では分科会（常任委員会）ごとに、特別の時間を設けて質疑が行われている。
- 決算審査から予算へのアプローチについては、現在の決算報告とその審査のタイミング、さらに行政の予算見積りの時期が合致しにくいこともあって、システムとして機能するには難しい点もあるが、多摩市議会のアプローチはある程度は決算・予算のサイクルとして確立してきていると思われる。

## 2. 議会活動の特性を考慮した議会費のあり方

### (1) 多摩 26 市の議会費の現状

ここで報告したいのは、歳出総額に占める議会費である、多摩 26 市の議会費と歳出総額に占める割合と議員 1 人当たり議会費は表 1 のとおりである。この多摩 26 市の議会費の現状について、以下の諸点を指摘できると思う。

- ① 議会費割合は、八王子市の 0.39%から狛江市の 1.17%まで、ちょうど 3 倍の開きがある。
- ② ただし、予算規模の小さい市の割合が多く、予算規模の大きい市が小さくなる傾向がある。歳出総額に占める議会費の割合が 1 を超える市、国立市、福生市、羽村市の 4 市は、歳出総額がすべて 300 億円以下である。300 億円以上の市で議会費割合が 1 を超える市はない。なお、300 億円以下の市で歳出割合が 1 を下回る清瀬市、東久留米市、あきる野市の 3 市も、議会費割合はそれぞれ 0.99%、0.99%、0.96%と 1 に近い。
- ③ そこで、議員 1 人当たり議会費をみると、上表のように歳出総額の多寡は議会費割合ほど明確な結果は出ない。ただし次のようにみることはできる。
  - a 歳出総額が 1000 億円を超える八王子市、府中市、町田市の 3 市をみると、八王子市を除いて 1 人当たり議会費は多く、町田市は第 1 位の約 1850 万円であった。
  - b 26 市平均（約 1570 万円）より多いか少ないかでみると、平均より少ない 14 市は、小金井市、国分寺市、多摩市の 3 市以外は歳出総額 400 億円以下である。その 11 市の中でも東村山市、東大和市、武蔵村山市、あきる野市の 4 市は 1400 万円以下である。
  - c 1 人当たり議会費が 1700 万円を超える市は、町田市をふくめて武蔵野市、三鷹市、青梅市、府中市、調布市、町田市の 6 市である。
  - d 最も多い町田市（18,539 千円）と最低の東大和市（13,302 千円）との差額は 500 万円をこえる。
- ④ 以上のように、歳出総額に占める議会費割合では議会費の多寡を計ることはできず、議

員 1 人当たり議会費によって計ることが適当であると思われる。もちろん、議員 1 人当たり議会費のみで議会活動の活性化状況をみる指標にはならず、この間指摘されてきたような多くの指標によって図ることが必要である。

- ⑤ 今回ヒアリングした多摩市の議会活動はきわめて活発であり、議会改革の状況もふくめて多摩 26 市の中では最上位に位置する取組みを行っている。しかしその多摩市で、議員 1 人当たり議会費が 26 市平均より下位にあるということは何を意味しているだろうか。この問いは、多摩市の行政や多摩市民に問いかけるべきものであろう。

歳出総額に占める議会費の割合（28年度） 金額の単位：千円					
	歳出総額	議会費	割合(%)	議員定数	議員1人当たり議会費
八王子市	193,944,232	764,598	0.39	48	15,929
立川市	73,814,658	457,934	0.62	28	16,355
武蔵野市	68,486,113	457,164	0.67	26	17,583
三鷹市	68,653,953	500,945	0.73	28	17,891
青梅市	49,127,546	408,900	0.83	24	17,038
府中市	106,980,011	530,867	0.50	30	17,696
昭島市	42,505,442	360,790	0.85	22	16,400
調布市	89,795,274	491,834	0.55	28	17,566
町田市	139,899,675	667,414	0.48	36	18,539
小金井市	40,218,989	359,647	0.89	24	14,985
小平市	61,529,066	464,242	0.75	28	16,580
日野市	66,281,575	398,651	0.60	24	16,610
東村山市	52,874,825	349,755	0.66	25	13,990
国分寺市	46,817,189	341,327	0.73	24	14,222
国立市	29,276,803	312,522	1.07	22	14,206
福生市	25,576,518	274,752	1.07	19	14,461
狛江市	26,792,968	314,666	1.17	22	14,303
東大和市	33,100,214	292,635	0.88	22	13,302
清瀬市	28,838,518	286,494	0.99	20	14,325
東久留米市	39,166,722	308,329	0.79	22	14,015
武蔵村山市	27,751,755	273,668	0.99	20	13,683
多摩市	52,711,296	392,635	0.74	26	15,101
稲城市	33,886,137	308,696	0.91	22	14,032
羽村市	23,272,370	252,559	1.09	18	14,031
あきる野市	29,275,851	280,819	0.96	21	13,372
西東京市	68,745,697	466,559	0.68	28	16,663
平均	—	—	0.68	—	15,705
※2018年度決算カード等より伊藤作成					

(2) 特別区の議会費の現状

特別区の現状は表2のとおりであり、多摩26市とはかなり様相を異にしている。現状と多摩26市との違いは以下のとおりである。

	歳出総額	議会費	割合(%)	議員定数	議員1人当たり議会費
千代田区	57,708,758	558,667	0.97	25	22,347
中央区	95,745,508	621,050	0.65	30	20,702
港区	128,423,868	727,103	0.57	34	21,385
新宿区	139,650,738	761,189	0.55	38	20,031
文京区	83,213,220	649,402	0.78	34	19,100
台東区	95,631,979	630,494	0.66	32	19,703
墨田区	112,200,056	639,658	0.57	32	19,989
江東区	186,084,694	891,097	0.48	44	20,252
品川区	159,246,900	809,091	0.51	40	20,227
目黒区	89,781,232	719,943	0.80	36	19,998
大田区	250,187,395	1,088,928	0.44	50	21,779
世田谷区	286,323,855	978,883	0.34	50	19,578
渋谷区	83,361,624	747,441	0.90	34	21,984
中野区	122,999,658	853,407	0.69	42	20,319
杉並区	179,405,697	937,088	0.52	48	19,523
豊島区	125,520,457	690,404	0.55	36	19,178
北区	143,111,565	779,560	0.54	40	19,489
荒川区	97,394,161	634,223	0.65	32	19,819
板橋区	200,476,870	903,067	0.45	46	19,632
練馬区	254,958,186	1,036,401	0.41	50	20,728
足立区	278,881,815	917,703	0.33	46	19,950
葛飾区	187,980,353	800,338	0.43	40	20,008
江戸川区	245,165,796	899,769	0.37	44	20,449
平均	—	—	0.51	—	20,238
※2018年度決算カード等より伊藤作成					

- ① 特別区議員1人当たり議会費の平均は2,000万円を超え、多摩26市の平均を約450万円上回っている。
- ② 最高は千代田区の22,347千円、最低は文京区の19,100千円であり、その差額は約320万円とわずかである。すなわち、23区はほぼ23区平均の2,000万円前後に納まっているとみることができる。

- ③ これは都区財政調整制度の下、議会費は 23 区ほぼ均等に支出されているとみることが可能である。この点が多摩地域との決定的な違いだと思われる。
- ④ それでは、近隣の指定都市との比較ではどうだろうか。横浜、川崎、相模原、千葉、さいたまの各市の状況は以下のとおりである。(次項の所沢市等とも、28 年度決算カードから伊藤作成)

	歳出総額	議会費	割合 (%)	議員定数	議員 1 人当たり議会費
横浜市	1,541,514,629	3,008,269	0.20	86 人	34,980
川崎市	606,991,762	1,760,368	0.29	60 人	29,339
相模原市	250,133,191	956,756	0.38	47 人	20,357
千葉市	400,622,162	1,239,474	0.31	50 人	24,789
さいたま市	452,230,687	1,642,435	0.36	60 人	27,374

上表のように、相模原市の 1 人当たり議会費は 23 区の平均と同水準であるが、他市は 23 区より相当に高い。特に横浜市は群を抜いている。その他の指定都市は札幌市 31,774 千円、仙台市 27,338 千円、新潟市 20,203 千円、静岡市 20,572 千円、浜松市 20,350 千円、名古屋市 30,940 千円、京都市 31,028 千円、大阪府 27,318 千円、堺市 25,312 千円、神戸市 30,011 千円、岡山市 24,274 千円、広島市 29,591 千円、北九州市 29,859 千円、福岡市 29,384 千円、熊本市 22,090 千円となっている。

23 区と指定都市とを比較することはあまり意味がないかもしれないが、23 区の議員 1 人当たり議会費の水準は、指定都市の中で財政規模等の少ない都市とほぼ同水準といえることができる。

### (3) 所沢市と飯田市の議会費

では、多摩市と同様に議会改革に取り組んでいる所沢市と飯田市と、神奈川県で議会費が多いと思われる鎌倉市の議会費はどうであろうか。

	歳出総額	議会費	割合 (%)	議員定数	議員 1 人当たり議会費
所沢市	101,940,208	595,187	0.58	33 人	18,036
鎌倉市	60,370,222	418,878	0.69	26 人	16,111
飯田市	44,679,117	272,743	0.61	23 人	11,858

所沢市の議員 1 人当たり議会費 18,036 円は、多摩 26 市と比較すれば最も多い町田市とほぼ同水準である。また鎌倉市は、多摩 26 市の議員 1 人当たり議会費を上回る。しかし、

飯田市のそれは極端に低い。

ちなみに長野県の各市は長野市 18,616 千円、松本市 14,226 千円、上田市 12,457 千円、岡谷市 10,863 千円、諏訪市 11,079 千円、須坂市 10,844 千円、小諸市 9830 千円、伊那市 10,146 千円、駒ヶ根市（定数）8,969 千円、中野市 9,037 千円、大町市 9,487 千円、7,678 千円、茅野市 9,987 千円、塩尻市（定数）10,788 千円、佐久市 10,601 千円、千曲市 10,022 千円、東御市（とうみし）8,000 千円、安曇野市 12,285 千円となっている。多摩 26 市同様、財政規模や財政状況によって相当な開きがあり、飯田市がとりわけ低いわけではなく、ほぼ平均的な水準にあると考えられる。また最高の長野市と最低の東御市では 2 倍以上の差があることも特徴である。

#### （４）議会費の課題

これまでみてきたように、23 区の議員 1 人当たり議会費は、指定都市と比較すると少ない方のレベルであるが、全国の市町村の中では上位に水準にあると思われる。また多摩 26 市も多い方に位置するものと思われる。しかし、少なくとも 23 区と多摩 26 市との比較では、その議会活動の状況をみても多摩 26 市の平均以下の市議会は 26 市の平均以上（1570 万円）、できれば町田市や武蔵野、三鷹、青梅、府中、調布の各市の水準（1700 万円以上）まで引き上げていくことを迫すべきだと考える。

何を引き上げるべきかを考える場合、議会費の内訳をみる必要がある。多摩市と立川市議会の議会費の内訳は以下のようにになっている。

**多摩市議会：議会費の内訳（28年度）**

単位：千円

科目	金額	科目	金額
報酬	155,520	交際費	500
給料	40,416	需用費	5,593
職員手当	95,325	役務費	1,602
共済費	69,054	委託料	13,863
報償費	162	使用料及び賃借料	2,161
旅費	2,978	負担金補助及び交付金	9,187
合計			396,361

**立川市議会：議会費の内訳（28年度）**

単位：千円

科目	金額	科目	金額
報酬	191,797	交際費	725
給料	37,041	需用費	3,281
職員手当等	110,445	役務費	1,154
共済費	91,119	委託料	14,852
報償費	176	使用料及び賃借料	2,901
旅費	4,043	負担金補助及び交付金	18,260
合計			477,652

それぞれの科目の内訳は、立川市議会の議会費決算書がホームページに掲載されている。

- ◇ 報酬 議員報酬、非常勤嘱託報酬
- ◇ 給料 一般職員給
- ◇ 職員手当等 期末手当、扶養手当等手当、時間外勤務手当、管理職手当
- ◇ 共済費 議員共済会負担金、共済組合負担金、地方公務員災害補償基金負担金、健康保険料、厚生年金保険料、雇用保険料
- ◇ 報償費 講師謝礼、政治倫理審査会委員謝礼、表彰記念品
- ◇ 旅費 普通旅費、特別旅費、費用弁償
- ◇ 交際費
- ◇ 需用費 消耗品費、燃料費・ガソリン、食糧費、印刷製本費
- ◇ 役務費 郵便料、電話料、クラウド文書共有サービス通信費、名札書替等手数料
- ◇ 委託料 シルバー人材センター委託料（議会報配布）、声の議会報録音委託料、インターネット用会議録検索システム管理業務委託料、会議録検索システムデータ作成委託料、議会映像・音声配信業務委託料
- ◇ 使用料及び賃借料 自動車借上料、議長車リース料、テレビ受信料、CATV視聴料、道路通行料、クラウド文書共有サービス使用料、駐車場使用料
- ◇ 負担金補助及び交付金 政務活動費交付金、全国市議会議長会負担金等、全国市議会議長会研究フォーラム参加負担金、全国都市問題会議参加負担金など

さて、所沢市議会の活動をヒアリングした際、地方自治法（第5節委員会）第109条の5項に定められている公聴会、同6項の参考人招致、第100条の2の改正（専門的知見の活用）に基づく、調査委託、附属機関設置などの取り組みを伺った。このような活動を展開しようとするれば、当然のことながら報償費や委託料の増額が必要になる。

すなわち、政務活動費のような議員個人に属する活動費ではなく、議会全体の活動として、都内の市区町村も公聴会開催、参考人招致、調査委託、附属機関設置などを行っていくことを期待したい。そのための議会費増額なら、市民の理解も得られるのではないだろうか。

#### <参考>

所沢市議会の議会改革を聞く（まちぼっとリサーチ 2018-07-22）

<http://machi-pot.org/modules/project/uploads/20180722.pdf>